

講演会要旨

1. 開催日：2007年5月24日（木）16時20分～17時50分まで
2. 会場：23号館309講堂
3. 講演者：多賀敏行氏（元バンクーバー領事，現東京都儀典長）
4. テーマ：「外交官が見た日本外交」
5. 要約：外交官としてヨーロッパ諸国や国連で30年近く活動した多賀氏は，外交官として実際に遭遇した日本と諸外国の慣習をよく理解しないことから生じる軋轢，押しが強い日本外交力の弱さなどをあげ，これらの問題を論じた。そのためには日本をよく知らなければならない。経済発展途上国を援助している日本の資金貢献はアメリカに次いで世界第二位であることなど以外と知られておらず，そういったことを認識すること，ヤマト運やペリカン便，至る所にある自動販売機などは世界のどこにも見られないこと現象であり，日本は世界に稀な安全な国であるとの象徴である。自国をよく知り，外国と上手に付き合う必要性を実感させられた講演であった。

（石井美樹子）

講演会要旨

1. 開催日：2007年6月27日（水）
2. 会場：17号館401号室
3. 講演者：尹慧瑛（一橋大学COE研究員）
4. 演題：「北アイルランドという〈場〉——ポスト植民地主義／紛争の諸課題」
5. 要約：本報告は、講演者の近著『暴力と和解のあいだ——北アイルランド紛争を生きる人びと』（法政大学出版局、2007年3月）を題材としたものである。本書は、現代社会における暴力と対立を生きるなかで私たちが遭遇する「平和」や「和解」をめぐる問題を、北アイルランドという〈場〉に根ざしながら、とくにマジョリティであるユニオニストの経験を通して考察することを目的としている。

北アイルランドは、イギリスによるアイルランド植民地支配の結果が凝縮された〈場〉であると同時に、30年以上にわたる紛争によって社会が著しく分断された〈場〉でもある。暴力と分断の克服が課題となってきた一方で、歴史と記憶をめぐる対立や相互不信が「和解」の困難さをことあるごとに示してきた、という。

こうした観点から、報告者は、とくにユニオニズムに注目し、そのマジョリティとしての心性と居場所を確保するためのアイデンティティ・ポリティクスについて議論した。さらに、ポスト植民地主義／紛争の課題として、紛争が終わらない状態のなかで、「平和」が模索されるという現実のなかでの人びとの苦悩、そして移民が存在するなかでのコミュニティ関係のあり方の複雑な様相について議論された。

（文責：永野善子）